

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山路 麻佳	職名	特任講師	学位	修士 (教育学)
----	-------	----	------	----	----------

研究分野	研究内容のキーワード
ピアノ演奏学、音楽表現	ピアノ演奏表現、音楽教育、保育者養成ピアノ教育、幼児の音楽表現、アンサンブル、リトミック

研究課題
<p>保育者養成のためのピアノ教育において、ピアノの経験がない初心者への効率的な指導法を弾き歌い伴奏を中心に、幼児の音楽表現と関連させながら考察する。</p> <p>幼児の音楽表現に関して、リトミックや器楽アンサンブル(合奏)を中心に考察する。</p> <p>ピアノ演奏表現について、ピアノ作品の作曲家や時代背景を中心にして演奏解釈を考察し表現を深める。</p>

担当授業科目
<p>子どものためのピアノⅠ (前期)</p> <p>こどものうたと伴奏法Ⅰ (前期)</p> <p>音楽の基礎 (前期)</p> <p>子どものためのピアノⅡ (後期)</p> <p>こどものうたと伴奏法Ⅱ (後期)</p> <p>保育総合表現 (後期)</p> <p>器楽アンサンブル (後期)</p>

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名 (子供のためのピアノⅠ)</p> <p>ピアノの基礎的な演奏技能を学んでいく上で、学生に応じた進捗で技術を向上していけるようグループに分けて個人レッスン形式に進めた。個人レッスン以外に、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。</p>
<p>科目名【こどものうたと伴奏法Ⅰ】</p> <p>保育者として音楽を楽しんで表現することができるよう、学生が曲のイメージを広げ曲に合った伴奏をつくり弾きうたいの演奏ができるよう個々に応じた指導ができるよう授業を展開した。個人レッスン以外に1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けることで、人前で弾くことに慣れるだけでなく、実践に即した形(保育者(弾き手)・子ども役(歌い手))で発表を行い、それぞれ感想を伝え合うことで保育者に必要なピアノ演奏技術について理解を深められるよう心がけた。2年次になり実習や就職試験など授業外でピアノが課せられることが増え、学生がより実践の場で力を発揮していくことができるよう、課題とは別に実習先や就職試験で求められる曲の指導もしていくよう配慮した。</p>
<p>授業科目名【音楽の基礎】</p> <p>6つの段階に分けたソルフェージュ教材を準備し、毎回の授業後半に取り組むことでリズム感や基本的な発声について演習を通して理解が深まるようにした。講義の際は机間指導を適宜行いながら進めることで学生から質問を受ける機会を設け、全体の状況を把握できるよう配慮した。これまでの音楽経験から既に音楽の知識をもっている学生と、これから初めて学ぶ学生と様々な経験値の学生がいるため、單元ごとに小テストを行うことでそれぞれの学習状況を把握するとともに復習への意識を高めた。</p>

授業科目名【子どものためのピアノⅡ】

個人レッスンを進めながら、科目担当者のもとで1人2回ずつ中間発表・グループレッスンの機会を設けた。これにより実践を意識してピアノ演奏に取り組むだけでなく、お互いに意見交換をすることで他者の表現を感じ受け止め言葉で伝える大切さや自身の演奏を見つめ直す機会を設けた。

弾き歌いの課題ではコード伴奏を用いた課題を入れることで、前期で履修した「音楽の基礎」での学びを踏まえて、知識に加えて演奏を通して理解を深めることで、より実践的なピアノ技能を高められるよう進めた。

授業科目名【こどものうたと伴奏法Ⅱ】

これまでに習得したピアノ演奏技術をもとに、学生の習得状況に応じた個々に合わせた課題を準備し授業を進めた。ピアノ演奏に不安がある学生に対しては、自信をもって現場で演奏していきことができるよう個々の技能に応じた簡易伴奏法を教授した。

授業科目名【保育総合表現】

学生主体で「シオンの丘こども劇場」を作り上げていくために、学生同士で意見を出し合う時間を多く設けた。また、学生が音楽劇を希望したため、個々の楽器経験をもちに楽曲のアレンジなどを学生と話しながらサポートに入り作品を表現していく上での音楽の重要性が伝わるよう進めた。履修者数が少ない中ではあったが、限られたものを使って学生が協力して考え進めることで、より現場に近い形で創り上げていくことができるよう心掛けた。

授業科目名【器楽アンサンブル】

履修者が少人数であったため、編成の大きいアンサンブルはできなかったが少人数でもできる教材を準備し、ハンドベルや保育現場で多く使われる楽器の奏法を学び、アンサンブルの美しさ楽しさが伝わるよう指導した。また、楽器演奏に苦手意識をもっている学生もいたが、身体や声を使ったリズムアンサンブルを取り入れることでアンサンブルへの理解を深めていくことができるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本保育学会	会員	2018年～現在に至る
九州公私立音楽学会	会員	2019年～現在に至る

2022年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(翻訳)				
(学会発表)				
(資格取得) リトミック指導資格(中級)		2023年3月	特定非営利活動法人 リトミック研究センター	リトミック指導者養成コースにおいて、2歳児に向けた指導法を習得し指導者として認定された。
ドイツ・ハンブルグ国際音楽春期講習会 修了		2023年3月	アレグロ・ミュージック・プラン	ドイツ・ハンブルグにて、講習会へ参加、修了演奏会へ出演し修了証書を授与された。 講習会場:ブラームス・コンセルヴァトリウム 修了演奏会会場:シュニトケ音楽院ホール 修了演奏曲目:リスト作曲 バラード2番、ショパン作曲 エチュード12番「革命」

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

--	--	--	--

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
北九州音楽協会	会員	2015年4月～現在に至る
福岡青年音楽家協会	会員	2016年4月～現在に至る
むなかた第九コンサート	伴奏ピアニスト	2016年4月～現在に至る
福岡青年音楽家協会「第205回 緑のコンサート」	ピアニスト	2022年4月23日
「九州山口ジュニアピアノコンクール」審査員	審査員	2022年7月29日
むなかた第九コンサート2022	伴奏ピアニスト	2022年12月4日
島村楽器「福岡地区音楽教室発表会」	伴奏ピアニスト	2023年3月11日

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

チャペルアワー 奏楽
クリスマス礼拝 奏楽
筑豊高校へ出張模擬授業 講師